

電源立地地域温排水対策事業 大間地点・ウニ移殖調査 (要約)

三戸芳典・山内弘子・木村 大

調 査 目 的

下北郡大間町沿岸において利用できない空ウニ（身入りの悪いキタムラサキウニ）の身入り向上とツルアラメの除去を目的に、ツルアラメ群落へのウニ移殖調査を実施した。

なお、詳細については、「平成10年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（大間地点）」として報告した。

調 査 方 法

大間町割石地先で1997年移殖群と1998年移殖群の追跡調査等を実施した。

結 果

(1) 1997年移殖群

空ウニは、周辺にツルアラメ群落がある根に、1997年11月15日移殖した。キタムラサキウニの身入りは、6ヶ月後で19.1%となり十分漁獲対象となることがわかった。また、翌年の6月までは9割以上の生残率が見込まれた。

(2) 1998年移殖群

1998年11月16日、1997年移殖群と同じ根に200個を移殖した。移殖約1か月後には、前年より広範囲に移動分散し、周辺のツルアラメや雑藻を摂餌していたが、スガモは摂餌されずに残っていた。

また、澤田、三木が風間浦村下風呂で行った移殖試験を参考にもう1か所の移殖場所として、平盤のツルアラメ場を選定し600個を移殖した。

キタムラサキウニは移殖後10日で移動分散を始め、40日後には南北に9.2m東西に7.8mの楕円状に広がった。摂餌の状況は、分散域の中心から半分の範囲でほとんどのツルアラメと有節サンゴモが摂餌され、残りの縁辺部は摂餌途中であった。また、スガモは摂餌されずに残っていた。